

2022 年度春学期東京学芸大学留学生センター

「日本理解」「多文化共修科目」

時間割・授業概要

2022/03/18

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
I 8:50 - 10:20	多文化共修科目 C 世界の言語と文化 (伊能裕晃) [N313]	日本理解 G 自然 (澤田康德) [オンライン]			
II 10:30 - 12:00			日本理解 C 人文 (斎藤敬太) [未定]		
III 12:50 - 14:20					
IV 14:30 - 16:00				日本理解 A 教育 /多文化共修科目 E (李 紅実) [N207]	
V 16:10 - 17:40				多文化共修科目 A 多文化社会の課題解決 プロジェクト (岡智之) [N313]	日本理解 E 人文 (高崎恵) [未定]

- \* 「日本理解」: 留学生のみを対象とした科目で、日本の文化や社会について、留学生同士で議論したり、実技や見学などを行ったりしながら、多角的に学ぶことを目的としています。
- \* 「多文化共修科目」: 学部の正規生（主に日本人学生）が履修できるCA科目としても同時開設されており、留学生と日本人学生が共に議論しながら、世界の文化や社会についての学びを深めることを目的としています。（今学期日本理解 A は、学部生向けには多文化共修科目 D となっています。）
- \* 日本語レベルについて: いずれの科目も、原則として日本語プレースメントテストの結果がレベル 1 と 2 の学生を対象としますが、レベル 3 の学生についても授業によっては受講が可能です。初回の授業で担当教員に確認してください。

授業科目名	日本理解 A：教育(学部生には多文化共修科目 E として開講されています。)
担当教員	李 紅実 (リ コウジツ )
ねらいと目標	この授業は、比較教育の視点から、日本の教育に関する多様なテーマを取り上げ、講師のトピックス提供から、受講生のグループ討論へ発展させたり、受講生のプレゼンテーションを通して、①日本の教育制度および教育事情に関する基礎的な理解 ②その背景にある日本の文化や社会の理解③日本語での発表のスキルと日本語力のアップを図ることを、ねらいとしています。
内容	授業においては、まず、講師の準備する資料を通して、日本の基本的な教育制度を理解し、映像を見ながら日本の学校の様子に触れます。次に、講師自ら経験した日本の教育現場、その背景にある日本の文化の理解に関して、いくつかのトピックを順に取り上げ(例えば、学校の行事、給食、部活、習いごと、PTA、日本の教師など) 受講生に討論のテーマを提供します。その後、少人数グループに分かれ、出身国(出身地域)の教育事情と比較しながら、その回のテーマについて、話し合います。話し合い後、各グループで取り上げた内容について簡潔に発表し合います。日本の教育事情やその背景にある文化を理解すると共に、自らの出身地・出身国に対する理解も深められるでしょう。学期末には、受講生が興味を持つテーマを選び、日本との比較の視点で研究します。学期末研究発表の方法は、まず、講師が「日本における外国人児童生徒の受け入れ政策と実態」のテーマでデモンストレーションします。発表者には、学期末レポートが免除されます。
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業のなかで紹介します。
成績評価法	・出席 40% ・授業への取り組み 30% ・学期末レポート(もしくは、学期末研究発表) 30%
授業スケジュール	1. オリエンテーション、自己紹介の時間を通しグループワークの準備など 2. 日本の教育制度、日本の学校の紹介(資料と動画) 3-10 履修者と話し合って決めた教育に関するトピック紹介、意見交換、発表 3. 教育に関するトピック① 4. 教育に関するトピック② 5. 教育に関するトピック③ 6. 教育に関するトピック④ 7. 教育に関するトピック⑤ 8. 教育に関するトピック⑥ 9. 教育に関するトピック⑦ 10. 教育に関するトピック⑧ 11. 個人発表デモ：日本における外国人児童生徒の受け入れ政策と実態 12-15 発表：自由テーマ (受講生の人数や関心や理解度に応じて適宜変更する可能性があります)

授業時間外における学習方法	インターネットや図書館の資料などを活用して、授業中に討論するトピックに関連する情報を事前に収集したりする。
授業のキーワード	比較教育・日本と諸外国の教育事情の比較
受講補足（履修制限など）	・日本語での活動が主になるため、（非正規の）留学生は、学期初めの留学生センターのプレースメントテストで、レベル1，2の学生の受講を認めます。レベル3程度の学生は、受講可能か、担当者に相談してください。また、日本人学生と留学生の受講者数のバランスの関係で、日本人学生の数が、留学生の数を越えたときは、履修制限をする場合があります。
学生へのメッセージ	留学生と交流したい日本人学生の積極的な参加を歓迎します。
（遠隔）授業形態	Teams と Webclass、対面のハイブリットで行います。学期の最初は遠隔（Teams と Webclass）で授業を行い、受講生の状況やコロナの状況によって、対面のハイブリットに切り替えたいと思います。

授業科目名	<b>日本理解 C：人文</b>
担当教員	斎藤 敬太（さいとう けいた）
ねらいと目標	この授業は、当たり前のように使っている「ことば」の様々な姿について知ること、今まで以上に多様性について考えられるようになることを目的とします。
内容	日本では、日本語以外にも様々なことばが使われています。この授業では、日本で使われている日本語（共通語、方言）、外国語などについて、身近にみられる看板（「言語景観」といいます）から見ていきます。みなさんのまわりにある看板をよく見ることで、日本語の様々な表現、使われ方、方言などが分かります。そして、どのような日本語あるいは外国語が、誰のために、なぜ書かれているのかが分かります。日本だけではなく海外の看板に書いてある日本語についても紹介します。各回では、テーマに合わせた課題を出し、それについての発表やディスカッションなどを予定しています。また、授業期間中に他大学の学生との交流企画を予定しています。
テキスト	特にありません。
参考文献	ロング、ダニエル、斎藤敬太『言語景観から考える日本の言語環境—方言・多言語・日本語教育—』春風社、2022 庄司博史、P・バックハウス、F・クルマス編著『日本の言語景観』三元社、2009 内山純蔵監修、中井精一、ダニエル・ロング編『世界の言語景観 日本の言語景観—景色のなかのことば—』桂書房、2011 本田弘之、岩田一成、倉林秀男『街の公共サインを点検する—外国人にはどう見えるか—』大修館書店、2017 磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店、2020
成績評価法	平常点・授業態度 40%、課題 20%、レポート 40%
授業スケジュール	1.オリエンテーション 2.言語景観調査 3.若者言葉、俗語 4.キャラクターのことば（役割語） 5.方言 6.語用論

	7.子どものための言語景観 8.日本に住んでいる外国人のための日本語 9.～10.日本に住んでいる外国人のための外国語 11.～12.日本語と外国語の接触 13.観光客のための外国語 14.海外で見られる日本語 15.まとめ (授業スケジュールは変更することがあります)
授業時間外における学習方法	普段の生活で、看板や表示に注意してみてください。また、自分たちが使っていることば、勉強している日本語について、考えてみてください。
授業のキーワード	社会言語学、言語景観、在日外国人、言語サービス、観光資源としての言語、言語接触
受講補足 (履修制限など)	
学生へのメッセージ	
(遠隔) 授業形態	遠隔授業の場合は、Zoom を用いる予定です。その他、必要な情報は WebClass で伝えます。

授業科目名	<b>日本理解 E：人文</b>
担当教員	高崎恵 (たかさきめぐみ)
ねらいと目標	この授業では、日本の宗教に注目し、日本の文化伝統への理解を深め、現代日本のさまざまな場面で宗教がどのように息づいているかを学びます。
内容	<p>一国の文化の「らしさ」や「伝統」は、時代に適応して変化しなければ生き残っていきませんが、それと同時に、過去からの連続性を保っています。「日本らしさ」や「日本の伝統」は、時代とともに変遷しながら、「古来から」綿々と続く日本イメージを創り出しています。</p> <p>この授業では、前半に、「文化」や「伝統」を語り考えるための基本的な概念や枠組を紹介し、後半では、現代の日本で見られる各種宗教に関する基礎知識と日本での歴史を学び、宗教が日常生活にどのような影響を及ぼしているかを考察します。</p>
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業のなかで紹介します。
成績評価法	<p>平常点 40%、個別研究 60% (発表とレポート各 30%) とします。</p> <p>平常点は授業参加によって評価します。</p> <p>個別研究は、現代日本の宗教から自由にテーマを選んで、レポートしていただきます。授業中に口頭発表 (20 分程度) したうえで、その内容をレポートにまとめていただきます。</p>
授業スケジュール	<p>受講生の人数や関心や理解度に応じて適宜変更の可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2-3. 創られた伝統</li> <li>4-5. グローバル化の中の日本と宗教</li> <li>6. 前半のまとめとディスカッション</li> <li>7-9. 日本宗教史概略：民族宗教・仏教・神道・キリスト教</li> <li>10-12. 日本の宗教事情：新宗教・イスラーム・観光・大衆文化</li> <li>13-14. 個人発表</li> </ol>

	15. 総評と総合討論
授業時間外における学習方法	日本人や日本の伝統や文化について考える際、授業でご紹介した分析枠組などを、応用してみてください。
授業のキーワード	文化、宗教
受講補足（履修制限など）	特にありません。
学生へのメッセージ	日本で感じたカルチャーショックが、日本文化を理解するひとつの手がかりです。日常感じる違和感を見つめなおしてみてください。
（遠隔）授業形態	Microsoft Teams と WEBCLASS を利用した遠隔授業を実施します。

授業科目名	<b>日本理解G：自然</b>
担当教員	澤田 康德（さわだ やすのり）
ねらいと目標	日本の自然環境に関する地域差を理解し、世界と日本の自然と文化や社会のつながりの違いを説明できるようにする。
内容	日本は南北（なんぼく）に大きく広がり、日本海側と太平洋側でも環境は違います。環境に関する考え方や捉え方（とらえかた）は、場所や発達段階（はったつだんかい）によっても違います。日本の自然環境と人々の環境の捉え方を理解します
テキスト	特になし。
参考文献	授業で紹介します。
成績評価法	授業の復習と感想 60%（毎回行います） 発表 40%（20分程度×1回）
授業スケジュール	講義 日本ひろがり 日本自然環境 日本社会・文化環境 世界の中の日本  ：自然と人間との関係を探求（たんきゅう）するうえで、自然環境の理解は重要です。本講義では、自然は人間生活と密接に関わっているという認識に立って、環境を捉え（とらえ）ます。近年は、気候変動（きこうへんどう）と人間活動との関係に着目されることが多いです。その際に必要な、広域（こういき）、地球規模（ちきゅうきぼ）で日本を捉える視点と、自分を取りまく身近な範囲から徐々に空間を広げて日本を捉える視点を養います。発表 「私の出身国と捉える日本の自然の違い」
授業時間外における学習方法	身の回りにある自然に関心を持ち、授業で学習した内容と照らし合わせたりする。
授業のキーワード	自然、気候、認識、環境、日本
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	
（遠隔）授業形態	Teams と webclass で行います。

授業科目名	<b>多文化共修科目 A :</b> <b>多文化社会の課題解決プロジェクト</b>
担当教員	岡 智之 (おか ともゆき)
ねらいと目標	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 A「多文化社会の課題解決プロジェクト」では、多文化社会に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。
内容	多文化社会となりつつある日本には様々な課題があります。在日コリアン、外国人労働者、難民、外国につながる子どもの教育などの在日外国人問題、沖縄やアイヌなどの国内での民族問題のほかにも、障がい者やセクシュアルマイノリティなどの問題も含め、広く多様性理解の課題としてとらえ、その課題に対して、私たちが何ができるかを一緒に考えていきます。課題解決はすぐにできるものではありませんが、それに向けて、まず知ること、理解することが必要です。さらに当事者の話を聞いたり、現場におもむいたり、またなんらかの発信をすることも課題解決に向けた活動の一つです。この授業では、個別に諸課題を学ぶとともに、課外活動やゲストトークを通して、体験したり当事者に話を聞く機会をたくさん設けています。学生は、自分のテーマを決め、テーマがつながる人とグループでプロジェクトを作って、発表をし、最後にレポートとしてまとめます。課外活動として朝鮮大学校訪問などを予定しています。
テキスト	特に定めません。
参考文献	有田佳代子他編著『多文化社会で多様性を考えるワークブック』研究社、2018 『マンガ・クラスメイトは外国人・課題編』明石書店、2020
成績評価法	平常点 30% (授業の最後にコメント用紙提出)、課外活動及びフィールドワーク 5% (感想文を含む)、個人発表 5%、グループ発表 30%、最終レポート 30% (最終レポートは 8 月 4 日 (木) 締め切り。A4 用紙 3 枚程度、3000 字以上は書くこと。)
授業スケジュール	1. オリエンテーション 2. 在日外国人問題 3. 在日コリアン問題 4. 難民問題 5. 沖縄から平和を考える、6. 沖縄問題 (ゲストトーク) 7. 未定 (ゲストトーク) 8. ヒューマンライブラリー—難民、トランスジェンダー、障がい者など 9. 前半振り返りとグループづくり、プロジェクト構想 10. 11. 私の多文化 (個人発表) ①② 12-14. 最終発表①②③ 15. まとめ
授業時間外における学習方法	学内や地域の多文化共生に貢献するためのプロジェクトなので積極的に課外活動に参加してください。授業外の調査やグループワークもあります。
授業のキーワード	多様性理解、多文化共生、プロジェクトワーク
受講補足 (履修制限など)	日本語だけで授業をやるため、原則として、プレースメントテストでレベル 1, 2 の学生に限定します。
学生へのメッセージ	日本人学生と積極的に交流したい学生を歓迎します。
(遠隔) 授業形態	基本は対面授業で行いますが、対面で受けられない留学生、また希望する学生にはオンライン (Teams) で受けられるようにします。WEBCLASS を使用して、資料や感想のアップをします。

授業科目名	<b>多文化共修科目 C：世界の言語と文化</b>
担当教員	伊能裕晃 (いのう ひろあき)
ねらいと目標	世界の言語と、その言語と深く関わる文化について、様々な言語的背景を持つ学生（日本人学生、外国人留学生）と交流しながら学んでいきます。互いの議論や協働学習を通して、異文化コミュニケーション、外国語学習、外国語教育、等の基礎となる、言語と文化を反省的に捉える力を養うことをこの授業の目標としたいと思います。
内容	自らが使用している／学習している日本語を一つの外国語と見なし、様々な言語と比較しながら、その特徴と世界の言語との違いを考えていきます。音声、表記、語彙、文法、コミュニケーション等について、毎回、グループに分かれて、具体的に言語を分析、考察する課題を行い、討論の中から気づいたことを発表し、それをまとめたミニ・レポートを作成します。学期の最後に、自分の学習したことのない言語の一つを選び、日本語との違いを分析して、プレゼンテーションを行い、それをまとめたレポートを出す課題があります。なお、今学期は、来日する外国人留学生が大幅に減ることが予想されます。この授業に参加する外国人留学生の人数によって、授業の内容が変わることがあります。
テキスト	特になし。
参考文献	必要に応じて、教室で紹介します。
成績評価法	出席、授業への参加度 40%、授業中の課題 30%、レポート 30%
授業スケジュール	全体的なオリエンテーションの後、日本語と世界の言語の音声、表記、語彙、文法、コミュニケーション等について、毎回、興味深いトピックを一つ取り上げ、授業を行います。 詳細な予定は、学期開始後、履修者の言語的な背景などを踏まえて決めたいと思います。 途中、グループで調べたことを発表する機会を2～3回設ける予定です。
授業時間外における学習方法	自分が使用している／学習している言語を使って、普段自分がどのようにコミュニケーションをしているかを振り返る。各国語の初級向けの教材を読んでもみる。
授業のキーワード	言語、文化
受講補足（履修制限など）	日本語だけで授業を行うため、外国人留学生は、原則として、プレースメントテストでレベル1，2の学生に限定する。
学生へのメッセージ	この授業自体が異文化コミュニケーションとなるよう、授業への積極的な参加を求めます。
（遠隔）授業形態	コロナ禍により円滑に日本への入国ができず、海外からこの授業を受ける外国人留学生がいた場合、学期の最初は遠隔(オンライン)で授業を行います。授業開始日までに、学芸大のメールと webclass に遠隔授業をするかどうか連絡しますので、必ず確認してください。 外国人留学生が、ある程度、来日した段階で対面授業に切り替えたいと思います。